

使用説明書

- 1 はじめに
- 2 保管
- 3 洗浄および消毒
- 4 滅菌
- 5 使用
- 6 廃棄

1 はじめに

これらの使用説明書および安全に関する推奨事項は、厳守していただく必要があります。これらの指示に従わないと、怪我を負う危険性が高まり、また、装置の適切な機能を損なうことがあります。この装置は、歯科用としての使用のみを目的としています。

器具類は、滅菌されていない状態で販売されているため、必ず使用前に、洗浄、消毒、および滅菌を行ってください。

器具類は、再利用が可能です。ただし、それぞれの症例や製品の損耗により、製品を再使用できるかどうか、またどの程度の頻度で使用するかについては、この器具類の使用者が、その判断の責任を負います。

2 保管

初回使用までは、器具類を元の包装に入れた状態のまま、ほこりや湿気のない状況下で、室温で保管します。これにより、器具類の耐用年数を維持できます。再利用可能な器具類であるため、耐用年数は、その損耗の状況によります。

滅菌後は、器具類を滅菌用包装材料に入れ、乾燥したほこりのない場所で保管してください。滅菌状態にある装置の有効期間は、滅菌包装の性能によることにご注意ください。決められた期日を過ぎたら、器具類を再滅菌する必要があります。

3 洗浄および消毒

警告：

クリーニングを行う場合は、アルコールや溶剤を使用しないでください。

CSTTを他の器具と一緒に超音波洗浄機で洗浄しないでください。

可能であれば、器具類の洗浄および消毒には、自動処理（WD: Washer-Disinfector（洗浄消毒器））を使用してください。手作業による処理（超音波洗浄機を使用した場合も含む）は、自動処理が利用できない場合にのみ使用してください。この場合、手動処理の効率や再現性が著しく低くなることを考慮する必要があります。

適切な洗浄・消毒剤を選ぶには、下記をご確認ください：

- 金属製/ジルコニア製器具類の洗浄・消毒に基本的に適していること
- 超音波洗浄に対する洗浄剤の適合性（泡が発生しないこと）
- 使用する洗浄剤との融和性があり、効果が承認されている（VAH/DGHMやFDA/EPAの認可またはCEマークなど）消毒剤を使用すること。
- 刺激の強すぎる製品（塩酸、過酸化水素など）は、器具類を腐食させる可能性があるため、避ける。

手作業による洗浄・消毒処理：

使用した器具類は、即時に、特殊な防腐殺菌溶液に短時間浸してください。

超音波洗浄機（他の器具と一緒にしない）または流水で器具類を洗浄します。

流水で少なくとも1分間、器具類をすすぎます（温度は < 35°C/95°F）。

新しく調整した溶液のみを使用してください。また、水は、純水/高精製水などの、無菌のものか低汚染水（最大細菌10個/ml）、低エンドトキシン汚染水（最大0.25エンドトキシンユニット/ml）を使用してください。また、乾燥には、それぞれ、やわらかく清潔で糸くずの出ない布や、もしくは除菌空気で乾燥させてください。

自動洗浄/消毒（消毒剤/WD（洗浄消毒器））：

WDの選定にあたっては、下記の点を考慮してください：

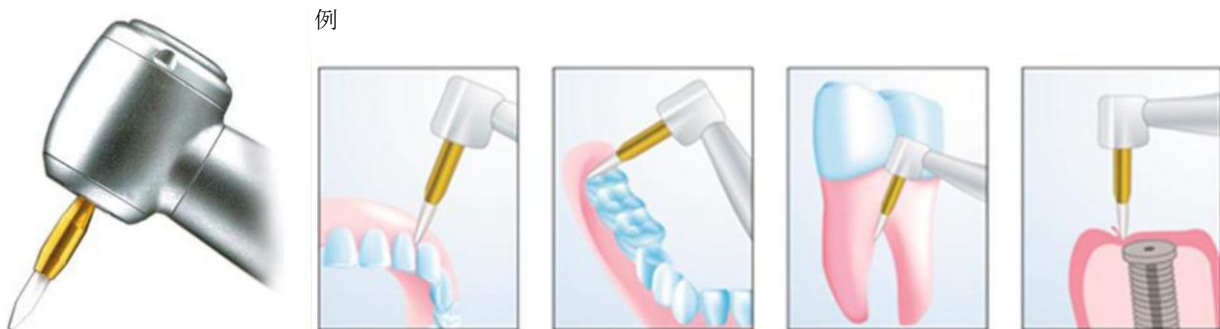
- WDの効率性が基本的に承認されている（EN ISO 15883に準拠したCEマークや、DGHMまたはFDAクリアランスなど）
- 煮沸消毒の承認プログラムの可能性（AO値 ≥ 3000以上、または装置が古い場合は、90°C/194°Fで最低5分。化学的消毒法を用いる場合は、器具類に消毒剤が残っている危険性を考慮）

- 器具類に対するプログラムの基本的な適合性、および、プログラム内に十分なすすぎのステップを含める
- 実行後のすすぎには、純水/高精製水などの、滅菌水または低汚染水（最大細菌10個/ml、最大0.25エンドトキシンユニット/ml）のみを使用し、乾燥には、除菌空気（オイルフリー、微生物や微粒子による汚染が少ない）のみを使用する。
- WDの定期メンテナンスおよびチェック/校正

4 滅菌

滅菌処理を行う前に、滅菌処理に適したスタンドおよびトレイに器具類を置きます。
器具類を滅菌します。オートクレーブ：18分、134°C、2気圧。

5 使用



警告：

水やスプレーによる冷却を行わずに使用します。

CSTT（セラミック軟組織トリマー）は、エアタービンの回転下で使用されます（300'000～500'000分-1）。運動エネルギーを正しく利用することで、組織を「焼く」ことなく熱凝固させることができます。推奨速度以下では使用しないでください。低速で使用すると、怪我をする恐れがありますので、避けてください。CSTTを使用する際は、歯や骨の組織に過度に接触しないようにしてください。

用途

1. 軟組織トリマーとしてのCSTT

- 歯肉モデリング
- 神経節間肉芽組織の裂傷
- 歯肉線維腫症/パピレクトミーの除去
- 骨内インプラント部および残存歯の露出

CSTTを使用する前に、血液や膿を洗い流し、綿のスポンジやエアシリンジで乾燥させます。CSTTの先端は、トリマーの先端を組織の中に押しんだり、1回の切断で深く切りすぎてしまわないように、30～45°の角度で、小さな「ブラシストローク」のような動きを使って組織の中を移動させる必要があります。

2. 補足的な用途：溝の開口部

CSTTは、必要な深さを均等にゆっくりとスライドさせながら溝に移動させます。歯肉の組織が失われないように、辺縁歯肉の上皮組織を保護することが重要です。

すべての用途でCSTTを正しく使用することにより、CSTTがしばしば、電気メスや手術用のブレードだけでなく、多くの場合、排除用綿糸の代替となることにもお気づきになられるでしょう。

6 廃棄

国や地域の法的規制を遵守して廃棄してください。